



台風の倒木処理



シイタケのホダ木作り



ホダ木の運び出し



道作り

## 森の若返り

「菅生若宮子ども体験の森」のコナラ林で、ボランティアが森の整備を行っています。整備をしなければ、木々が大きくなりすぎて風倒木などによりダメージを受けてしまいます。一般的には、風倒木などの被害があっても、空き地(ギャップ)ができれば、コナラの若木が育ち森の空き地を自然の力で埋めるといわれています。しかし、このコナラ林は、ヒサカキやアラカシを中心とする照葉樹の中低木が林床を暗く覆っているため、コナラやアカシデなどの落葉広葉樹の若木が育つ環境ではないことが大きな問題でした。

そこで、照葉樹を伐採し、立ち木密度が高い場所のコナラやリョウブも伐採することで、ドングリから若木が育つ環境を作ることになりました。

伐採したコナラは、「シイタケの駒打ち体験」のイベントで利用しますが、そこに至るのは、簡単ではありません。

まず、運搬車が通る道を作るため、傾斜を見ながら、ボサボサの藪を切り開きます。次にコナラを伐採し、シイタケのホダ木の大きさに切り、林内から担いで尾根道まで運びます。そして、クローラー式の運搬車で効率的に麓まで運び出しますが、オペレーターは、ひたすら山の上り下りを繰り返します。

多岐に渡る作業を多くの方の協力により行うことで、やっと落葉広葉樹林の若返りと資源利用の両立ができます。大変お疲れ様でした。

おつかれさま



運搬車でホダ木の運び出し



## もう一つの森づくり



ボサボサの原野



手道具で森の整備



手道具で森の整備

皆伐され放置された原野から森を再生する取組が、同じく「菅生若宮子ども体験の森」で進められています。

人が分け入ることも難しい藪で、重たい鉈鎌を手に、明るい落葉広葉樹林になるように樹種を見ながら徐伐を行いました。

皆伐をして、地拵えをして、苗木を植林する（画一的な森）ほうがどれだけ楽かと思いました。

森づくりを始める前のコナラの比率は17%でしたが、全体に手が入り、不要木が減ったことで、28%までコナラの比率が上昇しました。さらに、萌芽更新で大きく育ち3m程になったものから、ドングリから芽生えた数十cmの小さな苗木まで、多様な大きさのコナラがあります。人の手で選木はしましたが、自然に森ができあがる仕組みを利用しています。「コナラを中心とした森」への再生が進んでいます。

また、この森は、コナラ以外にもアカシデ、ヤマザクラ、ミズキ、イロハモミジなどで構成されているため、明るい落葉広葉樹林が育つ計画です。



整備が進んで林床が見える林

### 「いつになったら森ができるのか？」

まだまだ先の話です。見た目からも「森」より木が1本少ない「林」といったところでしょうか。自然の中で森が成り立つのはとても時間が掛かります。さらに、数年間は、草刈をして林床を管理しなければ、簡単にもとの藪に戻ってしまいます。高木が育ち樹冠を広げて緑陰が草を押さえてくれるまでは、人の手が必要になります。森は人に安らぎを与えてくれる存在ですが、今は、人が森の木々に安らぎを与えて、スクスク育ててもらおう時です。

人と森が相互に依存していることは、人と森が共存していくためにとても重要なことだと考えます。